

避難宿泊体験プログラムの実施報告

Disaster education program based on the evacuation life

内山 庄一郎 [1]; 納口 恭明 [1]
Shoichiro Uchiyama[1]; Yasuaki Nohguchi[1]

[1] 防災科研
[1] NIED

<http://www.sabameshi.com/>

1. 避難宿泊体験プログラムの概要

避難宿泊体験・夏の陣では、関東大震災のあった9月1日11時58分から避難徒歩を開始し避難所で一夜を明かす。この間にサバイバル体験、災害現象の科学実験、防災についての講演、対話、学習を行う。また冬場の避難体験として、2008年3月1日に冬の陣を実施する。ここでは、両イベントにおいて実施したプログラムの構成および内容を紹介し、同様のイベント企画立案に資する情報を提供する。

2. イベントの目的

この避難宿泊体験には二つの狙いがある。一つは、一般家庭向けの防災教育としての成果、もう一つは防災教育プログラム手法の開発・普及の二点である。

3. イベントの準備、広報

想定する参加者は、主としてつくば市近郊の小学生とその保護者、地域の防災ボランティアである。夏の陣における広報活動は、図(上)に示した案内状を、会場である防災科学技術研究所周辺の3小学校に対し合計約1400枚を配布、さらに防災科学技術研究所の公式ホームページ(<http://www.bosai.go.jp/>)で告知した。また、冬の陣では、つくば市の小学校に図(下)に示したA4サイズ、両面カラーの案内状を合計25000枚配布、および防災科学技術研究所HPでの告知を行った。

4. イベントの概要

夏の陣では、最寄避難所への移動から解散までを模して、避難徒歩体験・非常食体験・体育館での宿泊体験・自然災害の科学体験・講義を主な柱とした。冬の陣では、避難所における生活体験を重視し、非常食生活体験、体育館での宿泊体験、自然災害の科学実験、講義を実施した。

5. イベント中の安全対策

防災教育とはいえ大規模なイベントである以上、必要十分な安全対策を熟慮した。主なものは以下のとおりである。参加者は小学生以上とし、小学生の工作作業時には保護者同伴を原則とする。宿泊中は交代制で宿泊所入り口に詰める。主催者予算にて適切な保険に加入する。救急用品を常備し、イベント中は応急救急法の訓練を受けたスタッフが付き添う。会場となる施設の管理担当者を緊急連絡担当として駐在させる。また、イベント中に発生した危険事例の対策をスタッフおよび参加者へ周知することも重要である。

6. スタッフ、予算、準備物品

スタッフ、合計7名(メインスタッフ5名、助手2名)で実施した。内訳は以下の通り。プログラム講師3名、安全管理・施設管理、徒歩中の緊急送迎体制2名、補助・参加者の諸般の世話役2名。

予算は一回のイベントで総額約12.5万円であった。これとは別に冬の陣の案内用チラシ印刷費として25万円を要した。イベント一回分の費用の内訳は以下のとおり。保険(50名、1泊2日)1.7万円、非常食・非常用品費用5.0万円、外部講師旅費等5.5万円。購入物品は、非常食50食(アルファ米等、多様多種)、水100リットル(一人2リットル×50名)、他に、防災科学技術研究所の備品として以下のものを借用した。米、牛乳パック、アルミ缶(サバメシ)、ペットボトル、マップピン(エッキー工作)、カッター、ハサミ、油性ペン、カッターマット(一般工作道具)、ダンボール、新聞紙、麻袋(宿泊用)。

7. 今後の展開

本イベントを評価する。防災意識向上に関する評価は参加者へのアンケート調査およびイベント終了後約1ヵ月後に郵送するアンケートでの調査を行う。防災教育プログラムの開発・普及に関しては、関連学会での紹介とレポートの投稿を実施する予定。

関東大震災（1923年）が発生した9月1日午前11時58分につくばセンターに集合して、防災科学技術研究所まで歩いて避難。そして体育館で避難民のお泊まりとサバメシを体験。朝は配給の非常食で過ごして、電車が復旧したということで、つくばセンターまで歩いて解散。宿題まだの人、眠れない人には、Dr. ナダレンジャーのおもしろ科学実験工作が待っています。

避難宿泊体験教室・夏の陣@防災科学技術研究所



夏休み、最後の土日は ちょっと歩いてサバメシ炊いて、 Dr. ナダレンジャーと朝まで避難民！

と き：9月1日（土）午前11:58～9月2日（日）午前11:58

ところ：独立行政法人 防災科学技術研究所（つくば市天王台3-1）

小学生以上。原則として小学生は保護者同伴。先着50名（定員になり次第締め切らせていただきます）

お申し込み：TEL029-863-7753 FAX029-863-7754 電子メール nhg@bosai.go.jp

お電話、FAX、電子メールにて、納口恭明（のうぐちやすあき）までお問い合わせください

詳細な内容、スケジュールなどをご案内いたします。

Dr. ナダレンジャー



このイベントは、独立行政法人科学技術振興機構の地域科学技術理解増進活動推進事業 機関活動支援により実施されています。